

20040

多職種が関わるカテーテル室での誤認防止の取り組み

<sup>1</sup>おもと会 大浜第一病院

高木 あい<sup>1</sup>、与那覇 円<sup>1</sup>

【目的】心臓血管カテーテル検査・治療（以後心カテ）は、侵襲的な処置であるにも拘らず誤認防止が当院では徹底されていなかった。誤認によるヒヤリハット事例、インシデントが多数発生したため、医師・看護師・検査技師・放射線技師・臨床工学技士の多職種が関わるカテーテル室での誤認防止対策改善に向けた取り組みを行った。【方法】インシデント事例から原因を検索し対策を立て実施し評価する。【結果】心カテ運営会議を立ち上げ、そこで多職種が集まり意見を言い合える場を設け、誤認防止策を検討した。心カテの看護師リーダーを配置したことにより情報の一元化ができスムーズにカテが進行できるようになった。また、多職種全てのスタッフが患者情報を共有する用紙を作成し患者情報の掲示をした。各職種が情報を必ず確認し準備に取り掛かるようになった。それに伴い患者誤認が減少してきた。【結論】リーダーの配置、情報の一元化は検査・治療がスムーズに施行できる有用な手段であった。また、患者情報の掲示、患者確認方法は定着し誤認防止に役立ち、以前のような混乱はなくなった。忙しい時こそエラーが生じやすい、集中できる時間を作る必要がある。そのために現在、カテ室でもタイムアウト導入を進めている。多職種が集まるカテーテル室だからこそ、チームメンバーは安全活動の意義を理解してチーム全体で安全を確保することが重要である。